

2023年3月期（2022年度） 第3四半期  
決算説明資料

2023年2月

東証スタンダード市場：3423

 株式会社 **エスイー**

1. 2022年度第3四半期 連結決算実績
2. セグメント別の状況

1. 2022年度第3四半期 連結決算実績
2. セグメント別の状況

# 1-1.第3四半期連結決算実績サマリー（前年同期比）



## サマリー 前年同期比～増収減益

建設用資機材の製造・販売事業における前年同期スポット案件の剥落と納入先工事遅延、原材料価格高騰を主因に大幅減益

（単位：百万円）

	中期経営計画2020-2022			2022年度と2021年度 増減（増減率）	
	2020年度 3Q	2021年度 3Q	2022年度 3Q		
売上高	16,249	17,676	17,723	+47	(+0.3%)
営業利益 (対売上高比)	718 (4.4%)	1,663 (9.4%)	700 (3.9%)	▲963 (▲5.5%)	(▲57.9%)
経常利益 (対売上高比)	738 (4.5%)	1,681 (9.5%)	732 (4.1%)	▲949 (▲5.4%)	(▲56.5%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (対売上高比)	267 (1.6%)	1,064 (6.0%)	413 (2.3%)	▲651 (▲3.7%)	(▲61.2%)

### ・売上高

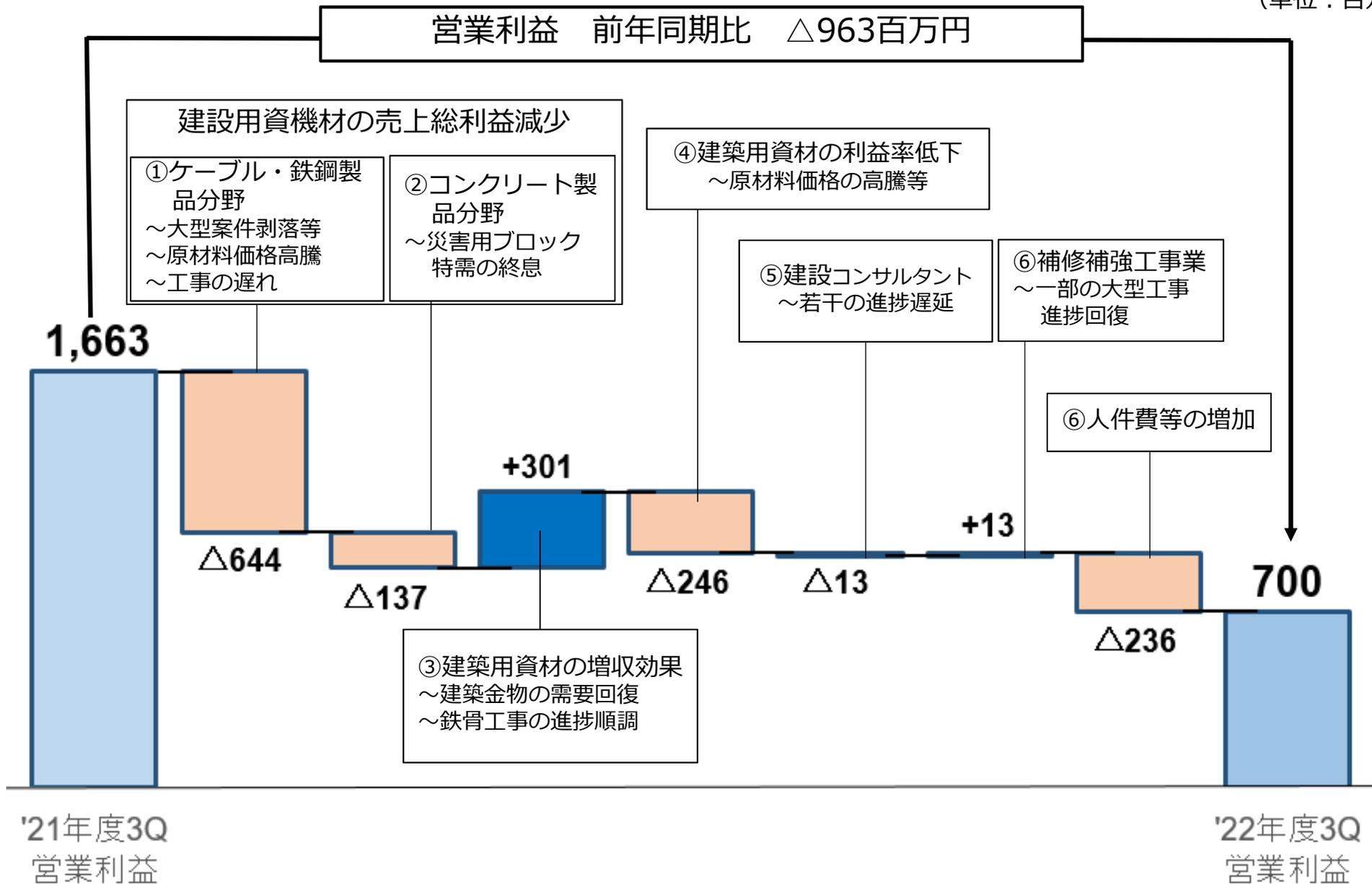
- 建設用資機材の製造販売において、前年同期にあったスポット案件の剥落および災害用コンクリートブロックの終息に加え、納入先の工程遅延により減少幅が拡大
- 一方、建築金物分野の大型都市開発、各種中小物件が回復。鉄骨工事は期初受注残と期中受注の工事が順調に進捗。
- その結果、全体では前年同期比+47百万円と増収。

### ・利益

- 上記スポット案件の剥落、工程遅れ、原材料価格の高騰影響、人件費等の増加により、経常利益は前年同期比△949百万円の大幅減益となった。

# 1-2. 第3四半期連結決算実績サマリー（営業利益増減） 株式会社 エスイー

(単位：百万円)



# 1-3.第3四半期連結決算実績サマリー(公表予想比)

## 【売上高】



## ・売上高

- 公表予想値に対する進捗は順調だが、内容的には予想と以下の点で相違。
- 建設用資機材の製造販売事業では、大型スポット案件の剥落に加え、2Qから徐々に発生していた工事遅延が3Qも継続。次年度に繰り越す案件が増加。
- 一方、建築資材の製造販売事業の建築金物分野、建築工事分野がコロナ影響から回復してきており、予想を上回る好調で推移。

## 【経常利益】



## ・利益

- 以下の要因はあるものの、現時点では公表予想値を据え置き。
- 原材料価格上昇の価格転嫁は進むも、原材料価格の上昇は継続。また、次年度に繰り越す案件が増加拡大により建設用資機材の製造販売事業は4Qでのリカバリーも苦戦を予想。
- 建築資材の製造販売事業では3Qで予想値を上回っており、建設用資機材の苦戦をカバーしていく。

# 1-4.連結貸借対照表サマリー

## サマリー

原材料費高騰に対し機動的な仕入れ・在庫積増しを実施した結果、棚卸資産が増加。運転資金増を借入金で対応したため、自己資本比率は低下、D/Eは増加。

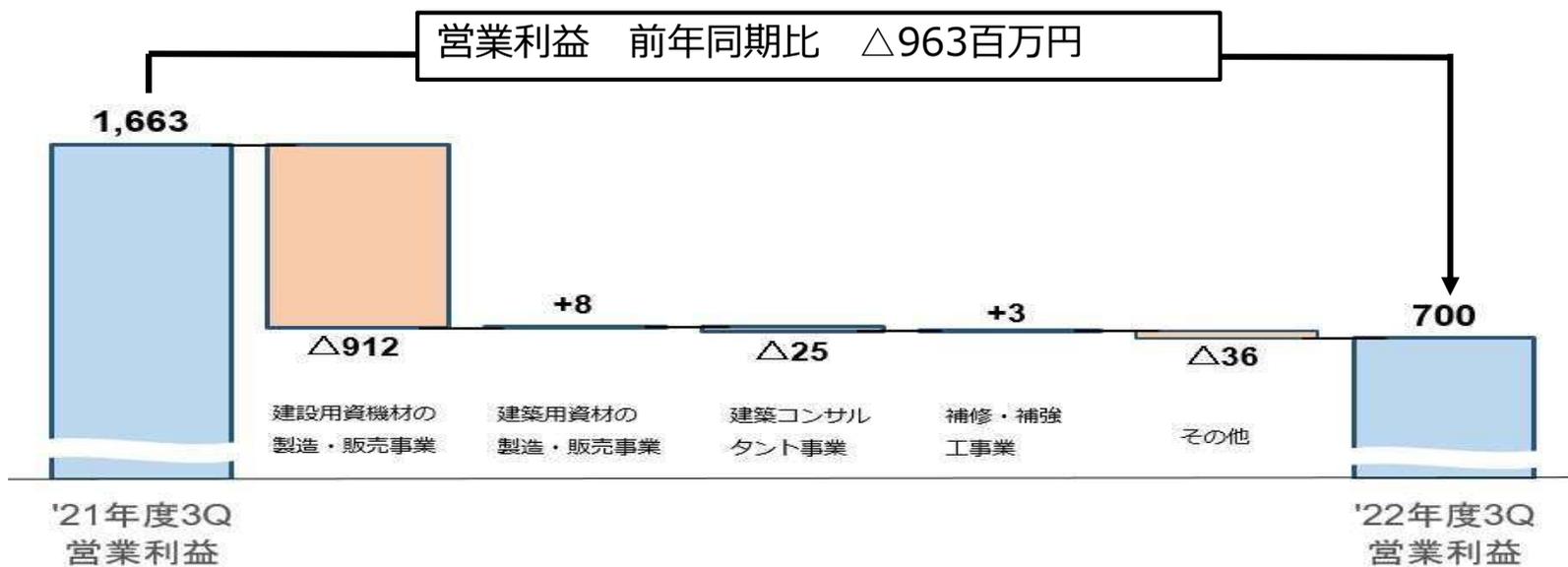
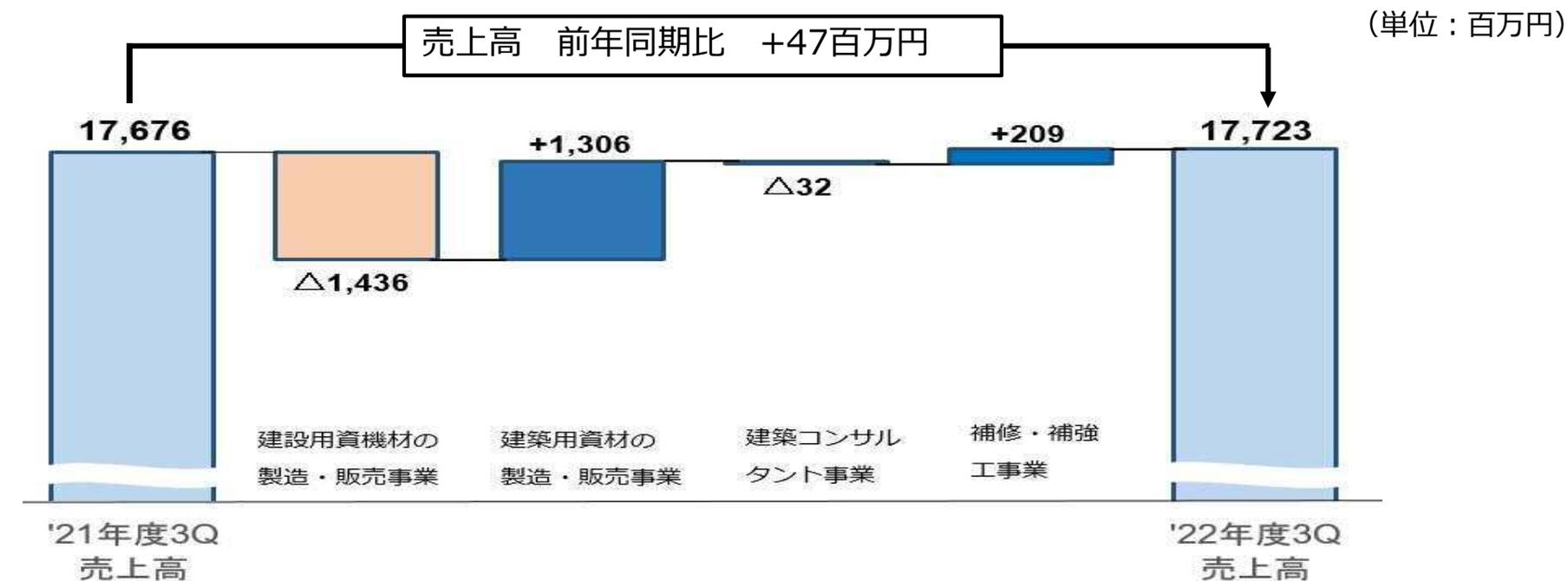
(単位：百万円)

資産			負債		
2022年 3月末	2022年 12月末	増減	2022年 3月末	2022年 12月末	増減
23,665	24,473	(主な内訳)	13,711	14,497	(主な内訳)
		△895 現金及び預金			△493 未払法人税等
		△113 電子記録債権			+891 借入金
		+715 原材料及び貯蔵品			+288 電子記録債務
		+267 受取手形、売掛金及び契約資産			+785
		+259 仕掛品			
		+190 商品及び製品			
			純資産		
			2022年 3月末	2022年 12月末	増減
		+290 建物及び構築物-純額	9,953	9,976	(主な内訳)
		+125 機械装置及び運搬具-純額			△421 株主配当金支払い
					+413 親会社株主帰属四半期純利益
					+32 自己株式処分
		+808			+22

		2022年3月末	2022年12月末	増減
運転資本	(百万円)	4,253	5,038	+785
有利子負債	(百万円)	4,713	5,554	+840
純資産	(百万円)	9,953	9,976	+22
自己資本比率	(%)	41.9	40.6	△1.3
D/Eレシオ	(倍)	0.48	0.56	+0.08

1. 2022年度第3四半期 連結決算実績
2. セグメント別の状況

## 2-1.セグメント別増減（前年同期比）



## 2-2.建設用資機材の製造・販売事業

### 【売上高】



### 【営業利益】



### ○前年同期比～減収減益

#### ・売上高 (前年同期比△15.0%)

- 前年同期にあった大型かつ高収益スポット案件の剥落、災害工事に関連したコンクリートブロック特需の終息
- 2Qから徐々に発生していた工事遅延が3Qも継続。次年度に繰り越す案件が増加

#### ・利益 (前年同期比△71.8%)

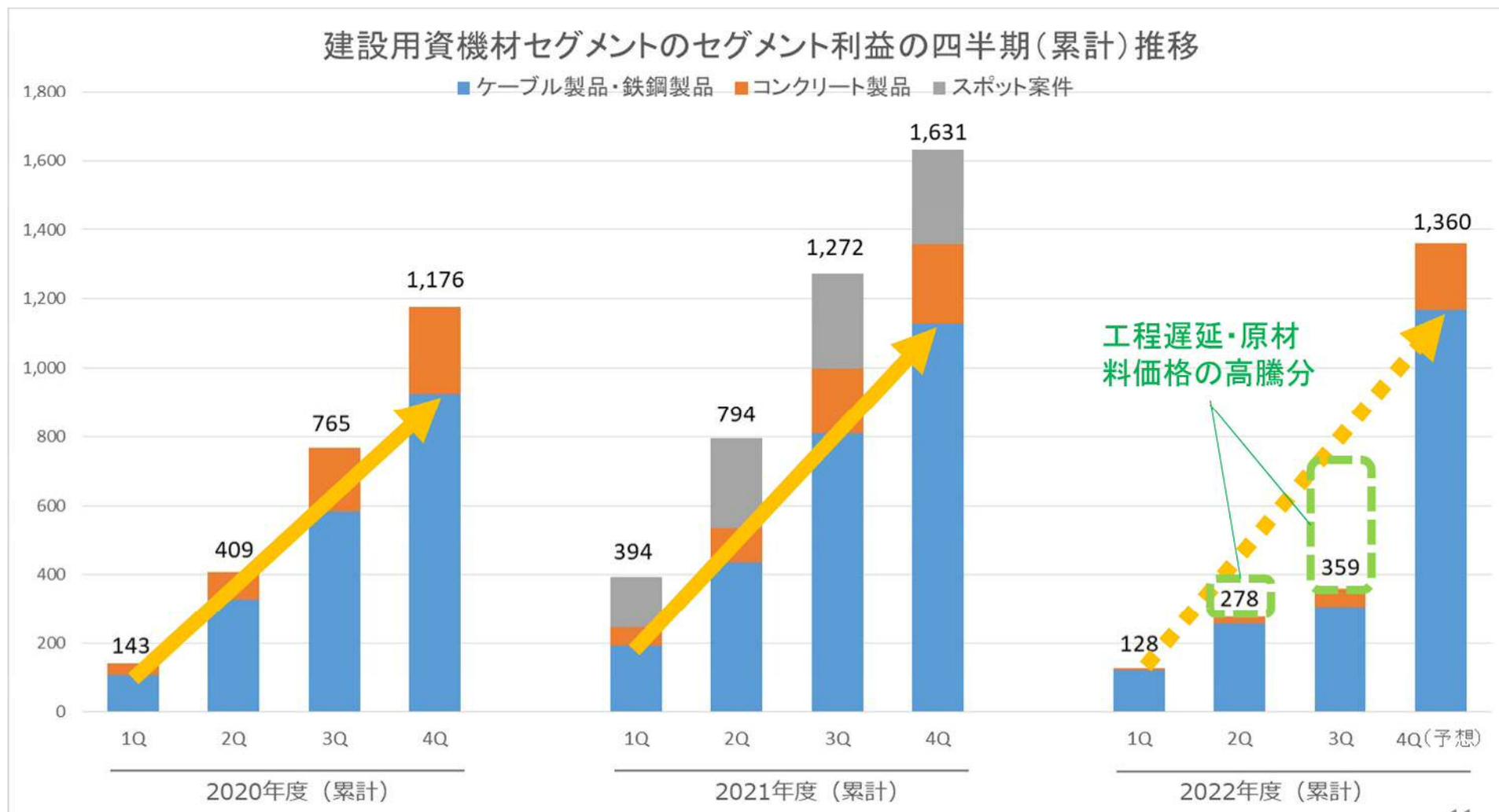
- 上記減収要因による減益に加え、原材料価格高騰による販売原価の増加、人件費・経費等費の増加により減益

### ○公表予想比～公表予想値を下回る見込み

- 3Qの進捗率が予想を大きく下回る (※次頁の解説参照)  
海外は依然として低調であるが、国内のケーブル・鉄鋼製品分野は好調を維持
- 工事遅延案件の増加、原材料費の上昇継続が懸念材料

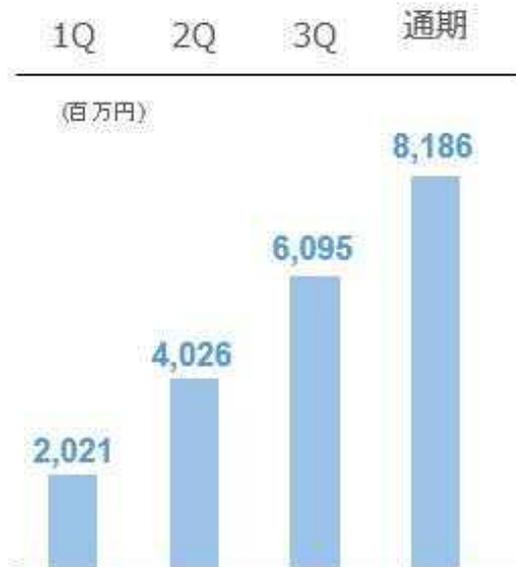
## 2-3. 主な減益要因と進捗状況の詳細（営業利益増減） 株式会社 エスイー

建設用資機材の製造販売事業において、大型かつ高収益のスポット案件及び台風19号災害（2019年度発生）の終息、原材料価格の高騰等の不安要因は公表予想に織り込んでいる。  
 3Q終了時点で、主要製品であるケーブル・鉄鋼製品分野における工程遅延および原材料価格高騰の影響が拡大した。4Qでのリカバリーは相当な苦戦を予想。



## 2-4. 建築用資材の製造・販売事業

### 【売上高】 '21年度 (累計)



### '22年度 (累計)



### 【営業利益】

(百万円)



### ○前年同期比～増収増益

#### ・売上高 (前年同期比+21.4%)

- 建築金物分野において、大型都市開発等や各種中小物件が徐々に稼働し回復基調にて推移
- 鉄骨工事分野は、繰越案件が多い中、期中の受注・消化もあり、順調に工事が進捗

#### ・利益 (前年同期比+1.7%)

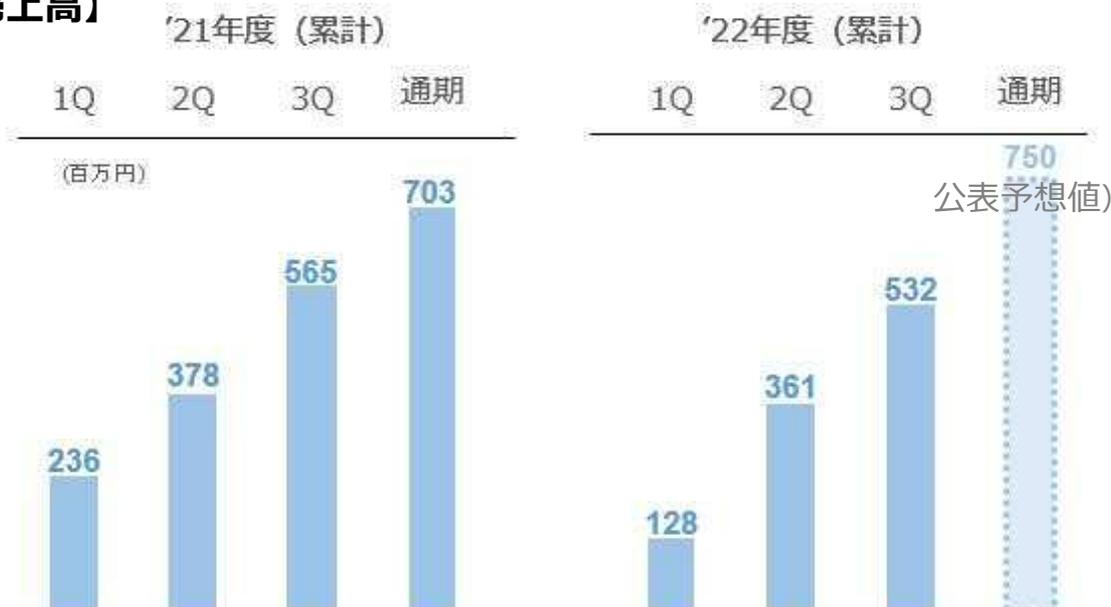
- 原材料価格の高騰等により利益率は低下
- 上述の売上増加により微増

### ○公表予想比～順調に推移、売上は予想値達成を見込み、利益は3Q累計に上積み

- 売上については好調を維持
- 建築金物分野は価格転嫁を推し進め、鉄骨工事分野は原材料価格上昇分の価格交渉を継続
- 建設用資機材の苦戦分をカバーしていく

## 2-5.建設コンサルタント事業

### 【売上高】



### ○前年同期比～減収減益

- ・売上高（前年同期比△5.8%）
- ・利益（前年同期比△51.2%）
  - 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による現地活動の制限は概ね解除
  - 前期より期初受注残が少ない中、案件の進捗状況は前年同期比とほぼ同水準であるが、経費増加により案件の利益率は低下

### 【営業利益】

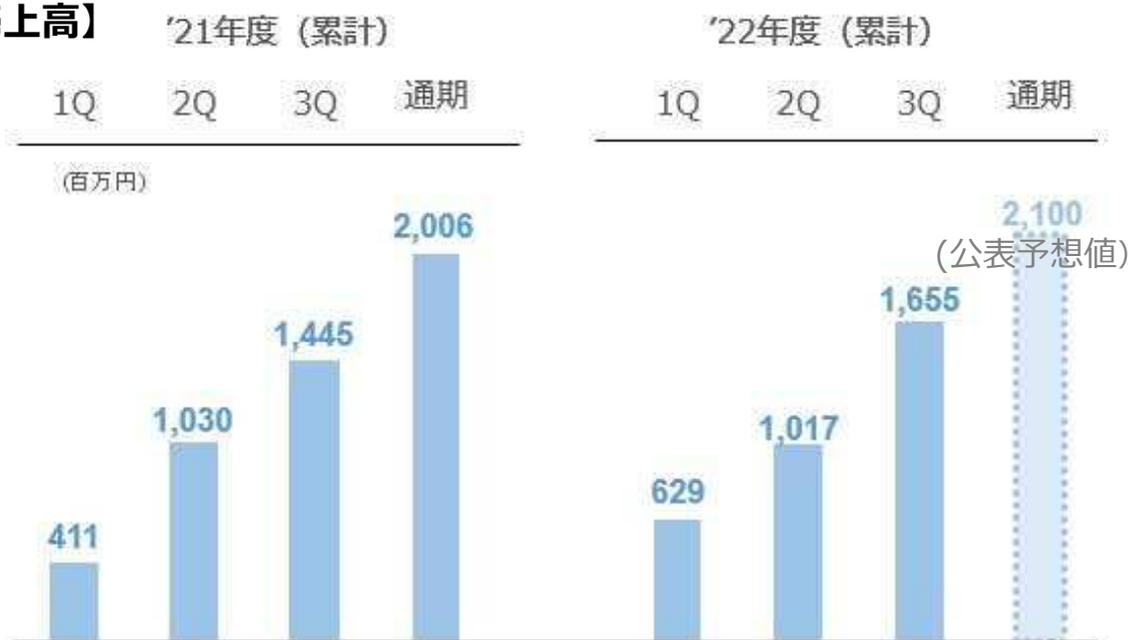


### ○公表予想比～概ね順調に進捗

- 受注案件の対応を進め、消化に努める
- JICA及び新規案件の受注拡大を図る

## 2-6.補修・補強工事業

### 【売上高】



### ○前年同期比～増収増益

- ・売上高（前年同期比+14.5%）
- ・利益（前年同期比+2.2%）
  - 一部の大型案件の遅延が回復
  - 受注工事の中で発生した追加工事分の増額

### 【営業利益】



### ○公表予想比～大型案件の進捗懸念は継続

- 受注環境は引続き良好で、売上高・利益ともに基本は堅調
- 大型案件の進捗次第では、新規受注・消化に影響がでて、利益の押し下げ要因となる。効率的な配置と受注工事の確実な消化に注力

---

## 将来見通しに関する記述についての詳細[ご参考]

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の分析、業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、現時点で入手可能な情報に基づく見解や将来の業績に係る見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの分析・業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

---

## International Engineering Maker

